

STOP ザ・ネズミ

快適な生活を送るために

快適な生活とはどのようなものでしょう。近年、衛生水準が向上し、ネズミが媒介する腸チフス・ペストなどの感染症は減少しました。しかし、都市化による住環境や生活様式の変化にともないネズミによる被害も経済的、衛生的にも多様化しています。

普段あまり見かけないからといって、注意を怠ると大変な被害を被るかもしれません。

ネズミの習性や特徴をよく理解し粘り強く防除を実施すれば、より快適な環境に一歩近づくことになるでしょう。

ネズミの種類と特徴

◆ クマネズミ



南方地域の樹の上で生活していた種類で、最も屋内に住みつきやすく、ビル内に生息することも多い。

体長は18~20cm、立体的に俊敏に行動し、登はん力、跳躍力に優れているが泳ぐのは苦手。警戒心が強く、特に音に敏感である。

尾長は体長よりも長く、目や耳も大きく、耳は折り返すと目を覆うほどである。毛色は背面が褐色、腹面は、やや黄褐色がかった白色をしている。

◆ ドブネズミ

北方系の種類で、零下数十度にも耐えられる。水気の多い所を好み、屋内だけでなく床下、下水道、水田等にも生息している。

体長20~26cm、行動は平面的で、泳ぎや潜水もでき、土中に穴を掘ることもある。餌に貪欲で、性格は凶暴、繁殖力も旺盛である。

尾長は体長よりもやや短く、耳は倒しても目まで届かない。毛色は背面が褐色、腹面が白色である。



◆ ハツカネズミ



畑地や雑草地から侵入し、農家や近郊住宅地、ビル内に住みつくことが多い。体長は6~9cm、行動は俊敏で、跳躍力、遊泳力にもかなり優れ、繁殖力も旺盛である。また、その大きな特徴は、体型が小型であるため、1cm位の間隙でもすり抜けることが可能であり、少ない餌でも生息できることである。

尾長は体長よりやや短く、毛色は灰色から黒色に近い。(通常はペット用の白いネズミとされているが、野生のものは灰色や黒色をしている。)

写真出典：社団法人日本ペストコントロール協会 刊
害虫スライド集CD-ROM版
撮影：其田 益成

ネズミの被害

- 直接、人を咬んだりする
- 食品や家具、電気コード等をかじる
- 感染症や食中毒を媒介する
- ノミやダニなどが寄生している
- 精神的に不潔感、不快感を与える



ネズミの習性

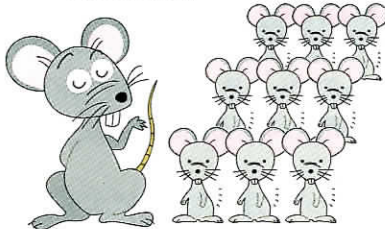
◆運動力◆

クマネズミで垂直に約1m、水平なら2m以上跳び、ドブネズミでも60~80cmを垂直に跳躍します。また、少しでも足がかりがあれば、垂直でもクマネズミはかなりの高さまで登り、ブロック塀ならドブネズミでも容易に登ります。壁面の穴は、頭さえ通れば通り抜けることができます。



◆かじる◆

1日に0.5mmも伸びる門歯を研ぎ削るため、柱、コンクリート、配線や回線などあらゆるものをかじります。

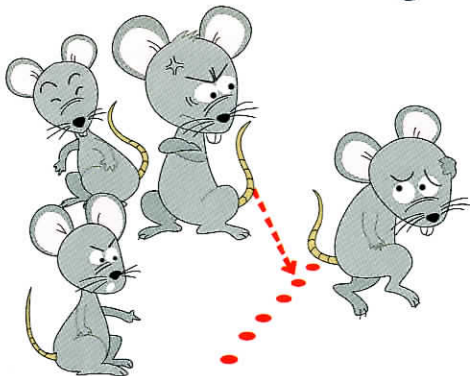


◆繁殖性◆

例えばドブネズミなら、生後3ヵ月くらいから約2年間に約10回の分娩を繰り返し、1回平均約9匹の子を産みます。

◆縄張り◆

ネズミは、数~10数匹の集団を形成し、餌確保のための縄張り(テリトリー)を持ち、他のネズミの侵入を排除します。また、一定の通路を持っており、いつも通る場所は黒く汚れています(ラットサイン)。



◆食性◆

雑食性で、餌の摂取量は、1日に体重の1/4~1/3で、妊娠時の雌は実に体重の約半分を摂ります。



ネズミの防除

1 環境の整備

ネズミが生息できない環境をつくることであり、侵入を防ぎ、活動を抑え、餌を与えないようにし、巣を取り除くことです。特に餌になるものの管理が効果的で、食品の格納や生ごみの処理は、防除の決め手になります。



◆忌避剤

トウガラシの辛み成分であるカプサイシンやハーブエキスを配合した製剤。

かじられてこまる配線等に塗布や散布することにより、被害を防ぐことができます。



2 器具による防除

生け捕り式(捕そかごなど)、接着式(粘着シートなど)等があります。

4 駆除後の注意

◆事後処理

死亡したネズミの回収除去を徹底してください。死体や巣とその付近にはノミやダニ等がいますので、その対策として、適切な殺虫剤処理を行ってください。

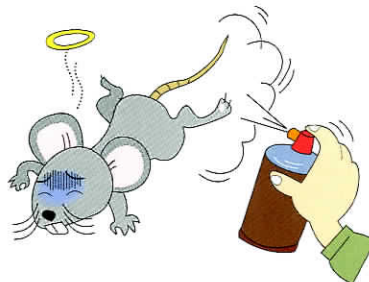
3 薬剤による防除

◆駆除薬

ワルファリン等のクマリン系薬剤は安全性が高く最もよく使用されています。餌にまがして4~5日連続して食べさせる累積毒の一種です。

市販のものでは、製剤となったものもあります。

【注意】 薬剤による駆除は、死体が腐敗しにくい冬期に限定しましょう!



◆ネズミの侵入防止処理

駆除した後そのままにしておくと、周辺から他のネズミが侵入し、元の状態に戻ってしまうので、ネズミの侵入口を塞ぐ等環境の整備をすぐに実施してください。

注意: 薬剤については、使用方法等説明書をよく読み、適切に使用しましょう。

お問い合わせ先